



環境教育学会 関西支部通信

第7号

### 関西ECOMAIL

環境教育学会関西支部から関西の会員の皆様に、ワークショップのお知らせと関西の環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また学会員外の方で環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方のコミュニケーションも広く回りたいと思います。

1000円の通信費（1年分）をいただきましたら、ワークショップの案内票書とECOMAILを送らせていただきます。

（通信費振込先……郵便局「大阪 9-37886」環境教育学会関西支部）

環境教育学会

ワークショップ（第12回）のお知らせ

9月21日（土）PM. 2:30~5:00

大阪教育大学天王寺分校

（JR寺田町下車、西へ徒歩3分または  
JR、地下鉄天王寺から東へ徒歩8分）

提供

田歌介さん（兵庫県教育委員会）

マ

自然観察会の運営と課題  
兵庫県自然教室の実践活動から――

大阪教育大学 06-771-8131(417)

鈴木研究室

世話係 赤尾 整志・鈴木 善次

注意：左記ワークショップについては  
学会通信「環境教育ニュースレター」  
No.6でもご案内しましたが、開始時  
刻が誤って記載されました。左記の  
ご案内のとおり、ワークショップは  
午後2時半から始まりますので、よ  
ろしくお願い致します。

### 関西支部の会合のお知らせ

左記ワークショップ終了後に、支  
部の会合を持ちたいと思いますの  
でよろしくお願い致します。議題  
は、新しい世話人会の承認などが  
予定されています。

### 関西支部新世話人会の発足について

「関西ECOMAIL」第6号、  
「環境教育ニュースレター」No.6  
でお知らせしましたように、新し  
い世話人会発足のための準備が、  
進められています。新世話人会は  
上記の会合で承認されれば、正式  
に発足することになります。

関西ワークショップで発表しました、豊中市の中央公民館主催「自然不思議キャンプ」はまだ元気です。大将の公民館の岩井さんは「やっぱり環境やで」とますます気炎を吐いて、年4回の環境キャンプを今年もがんばります。ついこの間もゴミ処理場キャンプから帰ったばかり。その話はまた紹介させていただくことにして、今回は3月29、30日に行いました都市探検隊のお話を報告させていただきます。

参加者は小2～中2までの40人。泊まった基地は市内にあるあけぼの幼稚園。(実はほくがPTAの会長をしてたりして)今回はこの基地から4つの探検隊で市内をウォッチングしました。住みなれた街、見なれた街角が何かにこだわりながら少し視線を変えただけで、いろんなモノが見えて来る。そんな体験を大切にしながら自分を取り巻く環境を観る目を育てていくことがネライです。

### 農業こだわり隊

これはボクが隊長。昔、私たちの家の周りにもいくらかあった農業。あの畑や田んぼはどこへいったのでしょうか。豊中の原風景を求めて出かけて行ったのはマンションに囲まれてタケノコ、ミカン、カキその他の野菜を作っているお百姓さん。小学生の「どんなもの作っているの」に始まり、中学生は経営状態にまで質問が飛びます。畑探検ではモグラ避けのプロペラやカラスよけの工夫に関心があつまります。井戸の水をロープ付きバケツで汲むのにことのほか苦戦。井戸で冷やしたジュースはうまかったなあ。

### 音こだわり隊

都市の音調べに出かけたのはSMILEの西田さんを隊長とした探検隊。市内を転々と10ヶ所も移動しながらサウンドマップづくりをしました。駅前の雑踏、商店街のにぎやかな声、それに比べて高級住宅街の静寂。やっぱり音も金次第とは大人の感想。いやもっと静かない場所がみつかりました。それは大阪府豊園。そよぐ風の音、カラスの声。やすらかに眠る場所としては最高ですね。普段聴いているはずの音が新鮮な9時間の探検でした。

### 看板こだわり隊

自然観察のリーダーをしている下吹越さんと景山くんを隊長にした探検隊。街の中のあらゆるメッセージを探します。駅前で一ヶ所から見ただけでなんと42。商店街の中はもうメッセージの洪水。古い町並みには歴史を感じさせる看板が。マチマネワニのついたマンホールの蓋の凸凹をフロッタージュ。(コンテで紙の上からなぞる)したり、警察署では道路標識の山積みを見発見。「空きカンすてないで」の看板の下に捨てられた空かん発見。おまけに古墳の発掘現場では古代人たちからのメッセージを技師の方から聴くことまで出来ました。

### 市場探検隊

スーパーマーケットでしか買物をしなくなった子どもたちに、日本で一番安いというウワサ

の豊南市場で買物をさせ、同じものをダイエーと環境にやさしい”はず”のCOOPで買い比べ、をしてみようというのが市民生活課に勤めるその道のプロ。織田隊長と尼崎環境教育を考える会の東福くん。子どもたちの驚きは人と人との掛合で売り買いがなされる市場。ビニール袋を10円で買わされたこと。トレイをはじめとした包装がほとんどない商品。

まとめ作業では包装の重量から添加物まで織田プロと勉強していました。結論は買い易いのがスーパー。しかし袋をもって市場に行くのが一番安上がりだということです。

ここで体験した街を観る目は、このキャンプが終わっても生活のなかへと戻っていきます。そして何か新しいきづきが彼らの生活を変えていくはずです。なぜそんなに自信をもって言えるかって・・・、うそだと思ふのだったら一度一緒に体験してみてください。次のキャンプではあなたが隊長です。

このキャンプには今回紹介させてもらいました人以外にたくさんのスタッフががんばっています。今回も竹笛づくりを教えていただいた松井氏やこのキャンプの仕掛人GECの岡氏、公民館は館長以下一丸となって家内工業で炊出しからプログラムの調整まで素晴らしいチームワークでこのキャンプをささえています。ぼくなんかええかっこして「やっています」なんてとんでもない。

ふしぎ体験

キャンプ

都市は  
二  
おもしろい!  
みんなに

☆ SMILE 環境教育会  
高田 研



## 「まちのおもしろ探検隊(Ⅱ)～清掃車と歩こう～」参加報告

7月24日。その日は抜けるような青空が広がり、朝から太陽がキラキラ照り付ける文字どおりの真夏日だった。そんななか「自分たちの出すゴミはいったいどうやって収集されているのだろうか?」と、?マークを胸一杯に詰め込んだ34人が豊中市立中央公民館に集まった。中学生5人・小学生20人・大人9人それにスタッフや職員の人を加えとなかなか大きな探検隊だ。私はスタッフとして1年前から色々な企画に参加させてもらっているが、毎回わくわくしてしまう。

今回最初のわくわくは、最新型の圧縮式ゴミ収集車「タウンパック」をすぐ目の前で作動するところを見れたこと。収集時の周囲の環境のことを考えて、静かで排気ガスの発生も少なくするように設計されている。ボタン1つでいろんな作業を力強くこなす姿はととも頼もしく見えた。もちろん子供達も大喜びで、いろんな質問が飛び出していた。

その後、5つの班に分かれていよいよ豊中の町中へと繰り出した。私達の班は庄内栄町方面に出掛けていった。庄内の商店街を歩きながら、足元に注意してみると結構ゴミが気になる。参加者の一人生協で活動を続けている人も「視線を少し下にしてみると気になることが一杯あるのよ。」と話してくれた。

途中でこの地区のゴミ収集の作業に同行させてもらった。わくわく。あのゴミ収集車に自分の手で自分たちの町のゴミを入れられるのだ。用意した軍手をはめて待っていると、それでは危険だからともっと丈夫な軍手を渡された。ゴミ収集の作業はととも危険なことを今回身をもって体験した。生ゴミの中から水が飛び出すことなんか日常茶飯事だ。私も子供達もたくさんそんな水を浴びてしまった。特に夏場のゴミは水分を多く含んでいる。その上、分別収集しているはずなのにジュース等のビンや缶が平気で一緒に出されている。危険物の日ならばそれなりに注意できるが、普通のゴミと思っている中に危険物が入っていると本当に怖いと思った。また再利用できるものもゴミになっていた。古い雑誌や新聞紙が束になって出されていたり、ダンボール等は大きい箱のままで出されている。古新聞やアルミ缶トレイなどはリサイクルするようにしてほしいといったゴミ処理場のおじさんの言葉が、重く胸に響いている。おじさんたちは無造作に出されたゴミパケツの中まできちんと確認して、ゴミは一つも残さないようにしているのだという。それなのにゴミの出されている状況はそんなおじさんのことなど考えてもいない。細い路地に平気で自転車や植木が置かれていて収集車が通れないところがたくさんある。ゴミの袋を拾っていくうちに私も子供達も何ともいえない憤りを感じてきた。それと同時に、今まで何気なく捨てていたことにととも反省した。私達が同行した地区はこれでもまだいい方だという。それでもひどい証拠写真がたくさん撮れてしまった。

公民館に帰ってからは、探検隊で見てきたこと聞いてきたこと体験したことを発表しあうことになり、私達の班は証拠写真をもとにゴミ新聞を作成した。子供達が記者となり「ゴミの分別状態」「ゴミの出され方」「おじさんからのメッセージ」と題した記事が書かれた。他の班からも様々な方法で体験したことが発表され、貴重な体験をわかちあった。私の班のある男の子は、社会科が苦手だから今回参加したと言っていた。しかし、その子の体験したことは社会科でもない、清掃のボランティアでもない。自分の出したゴミがどうなっているのかを自分で確かめただけ。しかし、その男の子は家に帰ったら今日の体験をお母さんに話し、この夏休み一緒にゴミの分別をすると元氣よく帰って行った。そして、今回の参加者にとって今日1日の体験は、「ゴミ」を生活のなかで身近なものとして捉え考える何かのきっかけになったはずだと私は確信することが出来た。ある夏の日の小さな体験にすぎないかもしれないが、こうした小さな積み重ねが地球のことを考えることの出来る子供達を育てて行くのではないだろうか。私はあの男の子を信じたいと思っている。

(報告 寝迎美春)

## 第一回 環境教育京都フォーラム 報告

京都をフィールドに、自然や環境をどのような切り口でとらえ、どのような教育活動を、どのような方々が行なわれているのか、様々な人々との交流の場を持つことで、情報交換やネットワークが作られていき、全体的な質の向上が図られればという思いから、今回の京都フォーラムを企画しました。とりあえずこの日は顔合わせ、呼びかけ人5名、ボランティアの学生4名を含め、36名の方々が集まりました。

始めに、呼びかけ人代表の久山喜久雄氏（法然院森の教室）が開会の挨拶と今回の京都フォーラムの趣旨を説明。さらに、山本が環境教育の最近の状況として、環境教育学会や清里環境教育フォーラム等の報告を行なった。引き続いて、呼びかけ人の活動報告にうつった。

染川香澄氏は、京都芸術短期大学児童図書館に勤めていて、“土と遊ぼう” “風を感じよう”などをテーマにし、子どもたちを図書館から裏山に連れ出し、自然の中で遊ばせているユニークな活動を紹介。「自然の知識がない人でも、自然の楽しさを感じられる第一歩になるお手伝いができれば」と、現在職員3人全員が、ネイチャーゲーム初級指導員を取得し活躍中。

中西甚五郎氏は、都市の中の貴重な緑として残っている京都御苑をフィールドに、身近な自然を感じる事の大切さを自然観察を通して活動していると紹介。

吉岡国久氏は（財）京都ユース・ホステル協会に勤め、ユースホステル運動として低年齢層を対象としたキャンプやホステリングを行なってきたが、環境教育との出会いをきっかけに、今までフィールドとしていたキャンプ場の自然環境に目がいっていなかったことに気づき、現在キャンプ場のフィールド調査と炭焼きキャンプを行ない、環境教育を手探りで実践していると紹介。

久山喜久雄氏は、法然院「森の教室」代表世話人として、地域に役立つ活動、地域のコミュニティの核になるようなことができないだろうかという法然院の住職の思いから、5年前からこの法然院を舞台に自然観察を通して、地域に根ざした活動を行なってきたと紹介。また、子どもたちを対象とした自然活動「森の子クラブ」の代表として、活発な活動を紹介。

その後、参加者の中から、何らかの団体等に所属されている方々に自己紹介をしていただいた。短い時間で十分な紹介をしていただけずに申し訳ございませんでした。とりあえず、今回は顔合わせです。たりなかつた部分は次回からじっくりとやっていければと思っています。

次回の予定として、10月に1泊2日にて、第二回環境教育京都フォーラムを考えていることを報告。また、次回の世話人として、第一回の呼びかけ人5名に、早川幸生氏と味沢道明氏にお願いしました。事務局は今回同様山本がお引き受けることに致しました。最後に、代表の久山氏が挨拶し、終了いたしました。司会も山本がいたしました。（その後の2次会には夜遅くまで盛り上がりました。）

\* とりあえず次回から、環境教育の中でも、自然や野外を対象にした教育活動の現場におられる方々の交流と、活動紹介から初めていこうと考えています。題して「自然体感ワークショップ？」お楽しみに！

（文責 山本幹彦）

# ネット・ワーク



平成3年度公開研究会ご案内

奈良女子大学文学部附属中・高等学校

本校は、「中学校および高等学校における教育の連携を深める教育課程」を課題にした文部省研究開発学校の指定を受けて、平成元年度から研究に取り組んできました。その中で、中学3年に《奈良学》、高校1年に《環境学》という総合教科を設置しました。公開研究会では、この2つの取り組みを中心にした発表を、下記のような日程で行います。全体講演会では、砂浜美術館やホエールウォッチングなどユニークな取り組みで知られる大方町町長 坂本氏に講演して頂きます。

ご参加いただき、いろいろご指導、ご批判をいただけると幸いです。

参加ご希望の方は、詳しい資料をお送りしますので、係までお申し出下さい。

〒630 奈良市東紀寺町1-60-1

奈良女子大学文学部附属中・高等学校 研究調査部

TEL 0742-26-2571 FAX 0742-22-6453

日程 平成3年11月22日(金)

- |             |   |
|-------------|---|
| 9:30~10:00  | 受付  |
| 10:00~10:30 | 全体会   |
| 10:40~12:30 | 公開授業及び研究発表<br>分科会Ⅰ《環境学》 高校1年<br>”地球にやさしい生き方を探ろう”<br>～生徒のフィールドワーク中間発表～<br>分科会Ⅱ《奈良学》 中学3年<br>”May I help you?”<br>～英語で奈良を案内しよう～ |
| 13:30~15:00 | 全体講演会<br>”ハードからハートへ<br>～自然とともに 町おこし～”<br>高知県幡多郡大方町 町長 坂本義春氏   |
| 15:00~15:30 | 講演・総合学習についての質疑・応答・討論  |
| 15:30~15:40 | 閉会  |

アース・エデュケーション（地球教育）ワークショップ

スティーブン・パン・メイター博士を迎えて

日時：基礎コース(basic) 9月28日(土)、上級コース(advanced) 10月5日(土)

場所、問い合わせ先：関西学院大学千刈キャンパス(担当：岡 ☎ 0795-63-5233)

主催：千刈キャンパス、SMILE(聖マーガレット生涯教育研究所一環境教育PROJECT)

参加費：各コース 6000円(受講料、昼食代、保険料ほか) 定員：40名

パン・メイター博士を迎え、自然への気づきから地球にやさしい生活へと導く地球教育の全体像の理解を深めていきたいと思っております。よろしくご参加下さい。

学会誌『環境教育』への積極的なご投稿をお願い致します。

日本環境教育学会 学会誌編集委員

青少年の健全育成と生涯学習に関する国際シンポジウム

次の時代へ

主催：(財)関西テレビ青少年育成事業団

後援予定：文部省、総務庁、大阪府、兵庫県、京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県、  
大阪市、関西テレビ放送株式会社

開催日：1991年9月25日(水) 9:00 - 17:00

場所：大阪商工会議所 国際会議ホール (大阪地下鉄 谷町4丁目または堺筋本町)

「生涯スポーツから見た豊かな高齢化社会」

ベリー・マックファーソン (カナダスポーツ科学協会 会長)

「来たるべき余暇社会の現実に向けて」

ジェフ・ゴッドベイ (ペンシルバニア大学 教授)

「21世紀の環境教育とエコロジカル・ライフスタイル」 ケン・ニールセン

(キャロライン・ファーネス・ルーテル・キャンパ・ディレクター)

「現代青少年の欠損体験と教育的補完の方法」

三浦清一郎 (福原学園 常務理事)

パネル・ディスカッション

(トータル・コーディネイター 原田宗彦 (大阪体育大学))

申し込み必要 入場無料(但し、通訳用レシーバー貸し出し代 500円)

問い合わせ先：(財)関西テレビ青少年育成事業団 国際シンポジウム実行委員会

〒530 大阪市北区西天満6-5-17 (☎ 06-315-2590)

関西E C O M A I L

第7号 1991年9月1日発行

通信費 年1000円

編集 環境教育学会関西支部世話人会

発行 環境教育学会関西支部

〒543 大阪市天王寺区南河堀町4-88 大阪教育大学 鈴木善次研究室内

(☎06-771-8131 [内線 417])

パソコン通信で原稿を下せる場合は、NIFTY= PFG00460

次回 第8号 1991年10月1日発行予定 原稿締め切り 9月20日